

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成 25 年 8 月 15 日 (2013.8.15)

【公表番号】特表 2012-532700 (P2012-532700A)
 【公表日】平成 24 年 12 月 20 日 (2012.12.20)
 【年通号数】公開・登録公報 2012-054
 【出願番号】特願 2012-519782 (P2012-519782)
 【国際特許分類】

A 6 1 F 9/007 (2006.01)

A 6 1 F 2/14 (2006.01)

A 6 1 L 27/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 F 9/00 5 5 0

A 6 1 F 2/14

A 6 1 L 27/00 D

【手続補正書】

【提出日】平成 25 年 6 月 27 日 (2013.6.27)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

瞳孔を形成する虹彩を持つ眼球の強膜静脈洞の一部に少なくとも一部が置かれるようになった眼内インプラントにおいて、

第 1 主表面、第 2 主表面、第 1 横方向範囲、及び第 2 横方向範囲を持つ本体を含み、前記第 1 横方向範囲の前記第 2 横方向範囲に対するアスペクト比は、2 以上であり、

前記本体は、前記第 1 主表面が凹状表面を含み、前記第 2 主表面が凸状表面を含むように長さ方向中央軸線を中心として湾曲しており、

前記本体の遠位部分が、チャンネル開口部を持つ長さ方向チャンネルを形成し、前記チャンネル開口部は、前記凹状表面の中央部分と直径方向反対側に配置されており、

前記本体は、前記眼内インプラントを強膜静脈洞に配置したとき、前記チャンネル開口部が強膜静脈洞の主側部と隣接する配向を前記眼内インプラントがとるようになっており、そのように形成されている、眼内インプラント。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の眼内インプラントにおいて、

前記チャンネルは、前記チャンネル開口部が強膜静脈洞の外主側部と隣接したとき、瞳孔から遠ざかる方向に開放しており、前記外主側部は、前記強膜静脈洞の内主側部よりも前記瞳孔から遠い、眼内インプラント。

【請求項 3】

請求項 1 に記載の眼内インプラントにおいて、

前記チャンネルは所定の幅及び深さを有し、

前記幅の前記深さに対するアスペクト比は、前記眼内インプラントが強膜静脈洞に配置されたとき、前記チャンネル開口部が強膜静脈洞の主側部と隣接する配向を前記眼内インプラントがとるようなアスペクト比である、眼内インプラント。

【請求項 4】

請求項 3 に記載の眼内インプラントにおいて、

前記幅の前記深さに対するアスペクト比は、1 よりも大きい、眼内インプラント。

【請求項 5】

請求項 4 に記載の眼内インプラントにおいて、

前記幅の前記深さに対するアスペクト比は、約 2 である、眼内インプラント。

【請求項 6】

請求項 1 に記載の眼内インプラントにおいて、

前記本体は、前記長さ方向中央軸線を中心として湾曲しているため、前記本体の前記遠位部分は、180°よりも小さい角度に亘って延びている、眼内インプラント。

【請求項 7】

請求項 1 に記載の眼内インプラントにおいて、

前記本体には、前記チャンネルと流体連通した追加の開口部が形成されており、前記インプラントの前記本体は、前記本体に形成された開口部により、50%よりも大きく開放している、眼内インプラント。

【請求項 8】

請求項 1 に記載の眼内インプラントにおいて、更に、

前記本体に付着した治療剤を含む、眼内インプラント。

【請求項 9】

請求項 8 に記載の眼内インプラントにおいて、

前記治療剤は、抗緑内障薬を含む、眼内インプラント。

【請求項 10】

請求項 9 に記載の眼内インプラントにおいて、

前記抗緑内障薬は、プロスタグランジン類似体を含む、眼内インプラント。

【請求項 11】

請求項 10 に記載の眼内インプラントにおいて、

前記プロスタグランジン類似体は、ラタノプロストを含む、眼内インプラント。

【請求項 12】

請求項 1 に記載の眼内インプラントにおいて、

前記本体は横方向中央軸線を中心として湾曲しており、前記本体の長さ方向軸線が平面を形成する、眼内インプラント。

【請求項 13】

請求項 12 に記載の眼内インプラントにおいて、

前記本体は、前記横方向中央軸線と前記本体の外範囲との間を延びる横方向曲率半径を有する、眼内インプラント。

【請求項 14】

請求項 13 に記載の眼内インプラントにおいて、

前記横方向曲率半径は実質的に一定である、眼内インプラント。

【請求項 15】

請求項 14 に記載の眼内インプラントにおいて、

前記横方向曲率半径は前記本体の長さに沿って変化する、眼内インプラント。